

肢体不自由のある方をサポートするとき

【大切なこと】 本人の希望を聞き、慌てずに行動しましょう

■ 主な特性等

- 体の変形やつっぱり・関節が固まって動かない等の状態があり、通常の車いすに座れないこと・床の上で座位を保てないことがあります。
- 特に足にハンディがある場合、車いすや杖等の補助具がないと一人での移動が困難です。
- 脊髄や頸椎の損傷により姿勢を保つことが困難になる体幹機能障がいでは、発汗、体温調節、排尿、排便等の自律神経の障がいを伴うことがあります。
- 言語障がいがある方は、自分の意思を伝えにくかったり会話が困難だったりします。

■ 避難誘導の仕方

- 声のかけ方・コミュニケーションのとり方では、言語障がいのある方もいるので、慌てないで話を聞く等の落ち着いた対応をしましょう。
- 肢体不自由の方は、緊急時には普段より移動全般が困難になります。危険を避けるためにも本人に確認しながら、希望にそった支援をしてください。

① 言語障がいのある方の場合

- 「はい（うなずく）」「いいえ（首ふり）」で答えることができるような質問にしましょう。
- 50音表を作り指差しをしてもらうようにしましょう。
- 50音を順番に話し、目線やまばたき等で一音ずつ確認しましょう。
- 単語や絵を示したり、紙に筆記してもらいましょう。

② 杖を使っている方の場合

- 本人がゆっくり歩くことができるように、段差やでこぼこの少ないところを選んで誘導しましょう。
- 歩行が困難な方に対しては、支援の方法を聞き、体を支える等の介助を行いましょ。う。

③ 車いすを使っている方の場合

- 車いすの急な発進や停止、方向転換は事故のもとです。動作ごとに「車いすを押します。」等、必ず一声をかけてから介助をしましょ。う。
- 階段を昇り降りする場合には、特にゆっくりと移動することが基本です。車いすごと持ち上げる場合には3～4人で運ぶのが安全です。

④ 杖や車いすが壊れた場合

- 災害時には車いすが使えないこと、さらには身動きがとれなくなってしまうことも想定されます。担架が用意できない場合は、背負ったり、複数人で抱えたり、毛布やシーツに乗せて移動する等の方法もあります。

■ 避難生活支援で気をつけること

【避難所での支援】

- 移動が少なく済むように、できるだけ出入り口やトイレに近い場所に居場所を確保するようお願いします。
- 車いすに対応した簡易トイレを用意し、車いすが通れる通路の確保をお願いします。
- 車いす用のトイレがあっても、使い慣れたものでないと使用できないこともあります。その場合は差し込み便器を利用して寝たままで行わなければならないこともあり、スペースやプライバシーの確保が必要になります。
- 寝る場合はかかとやお尻、背等の部分だけに体重がかからないよう、できるだけやわらかい素材のマットを準備するようお願いします。

- 自分で体を動かすことができない方は、寝ているとき、座っているとき、同じ姿勢でいると「じょくそう」ができる危険性があります。可能な限り体の向きを変えるようお願いします。
- 言語障がいがある方を介助・支援する場合は、コミュニケーションツールを用いて、必ず本人の意向を確認するよう配慮をお願いします。
- 身体・知的の障がいを併せ持つ重度重複障がいの方には、環境・衛生面に配慮を必要とする方がいます。周囲の環境が落ち着いていること、衛生的であること（空気の汚れ、ほこり等が体に影響します）、冷暖房等で適度な温度が保たれていること（体温調節が困難な方がいます）等の配慮が必要になります。また、医療的ケアが必要な方もいますので、専門スタッフの医療的なフォローが必要になるとも予想されます。

■ 災害発生時に困難なこと

- 自力で逃げることができません。杖や車いすを使用している場合は、段差が生じたりガレキが散乱したりして通行困難になります。また、車いすの場合は落下物によるパンクの危険性が高まります。

■ 本人、家族等から支援者へ (知っておいてほしいことを記入しましょう)

(自由記述欄)

(例) 足にハンディがあると、一人で避難することはとても困難です。家族がいなくてもあるので、声をかけてください。

■ 非常用持出品や備蓄品

(本人、家族や地域支援者と一緒に確認・準備することが大切です)

- おぶいひも
- 毛布（搬送用、保温用）
- ビーズクッション（じょくそう予防）
- おむつ
- 痰の吸引器とバッテリー
- ムース食等、嚥下状態にあった非常食
- 経管栄養食と器具
- 薬とお薬手帳
- コミュニケーションツール（50音表、絵等）
- 情報を記入したカード（例えば、救急安心お守りカード）
- その他（ ）

■ 事前の対策

(本人、家族や地域支援者と一緒に確認・準備することが大切です)

- 寝る場所や居住空間は、避難しやすいようにできるだけ1階とし、倒れてきたり落ちてきたりする物がないように対策をとっておきましょう。
- 自宅の廊下等の通路は、車いすが通れる幅を確保しておきましょう。確保できない場合は、車いすに代わる移動手段を確保しておきましょう。
- 車いすや歩行補助器具は安全な場所に置き、暗闇でもわかるように発光シール等を貼っておきましょう。
- 車いすの空気圧や電動用バッテリー（充電や液量）は、常にチェックしておきましょう。
- 家族や地域支援者と一緒に安全な避難場所までの避難ルート及び避難方法を確認しておきましょう。

■ 災害発生時にすること、気をつけること

- まず、落ち着きましょう。そして危険から体を守り、人を呼びましょう。
- 自宅で災害が発生したときは、準備してある非常持出品をいつでも持っていけるようにしておきましょう。